

The background features several thick, flowing, curved lines in shades of light blue, cyan, green, yellow, and pink, creating a dynamic and abstract pattern.

# **ANNUAL REPORT 2024**

**特定非営利活動法人こどもNPO**



## 「子どもの視点に基づいた子どもの表現・思いを大切にしたい社会参画」

### 「子どもの思いを大切にするネットワークづくり」

各拠点事業を通じて、さまざまな子どもの段階に応じて、内側の思い(Views)の表現を大切にする場を子ども・ユース・大人と共につくった。それが、子どもが社会や自らの環境に影響を与える環境や地域への参画につながっている。また、子どもの内側の思いを大切にするために必要な社会資源と繋がり、顔が見える関係性を築きながら学びあえるネットワークづくりがひろがりをみせた。

#### ■ 日常的な子どもの思いを中心に据えた取り組み

・森の実 ・児童館 ・学習支援／居場所

#### ■ 子どもたちの日常の声をもとにした事業骨子組み

事業の企画組みを子どもの声を基にして構築

↓

【自主・助成事業】

・SOS 事業 ・子どもたいけん隊など

#### ■ ネットワークづくり

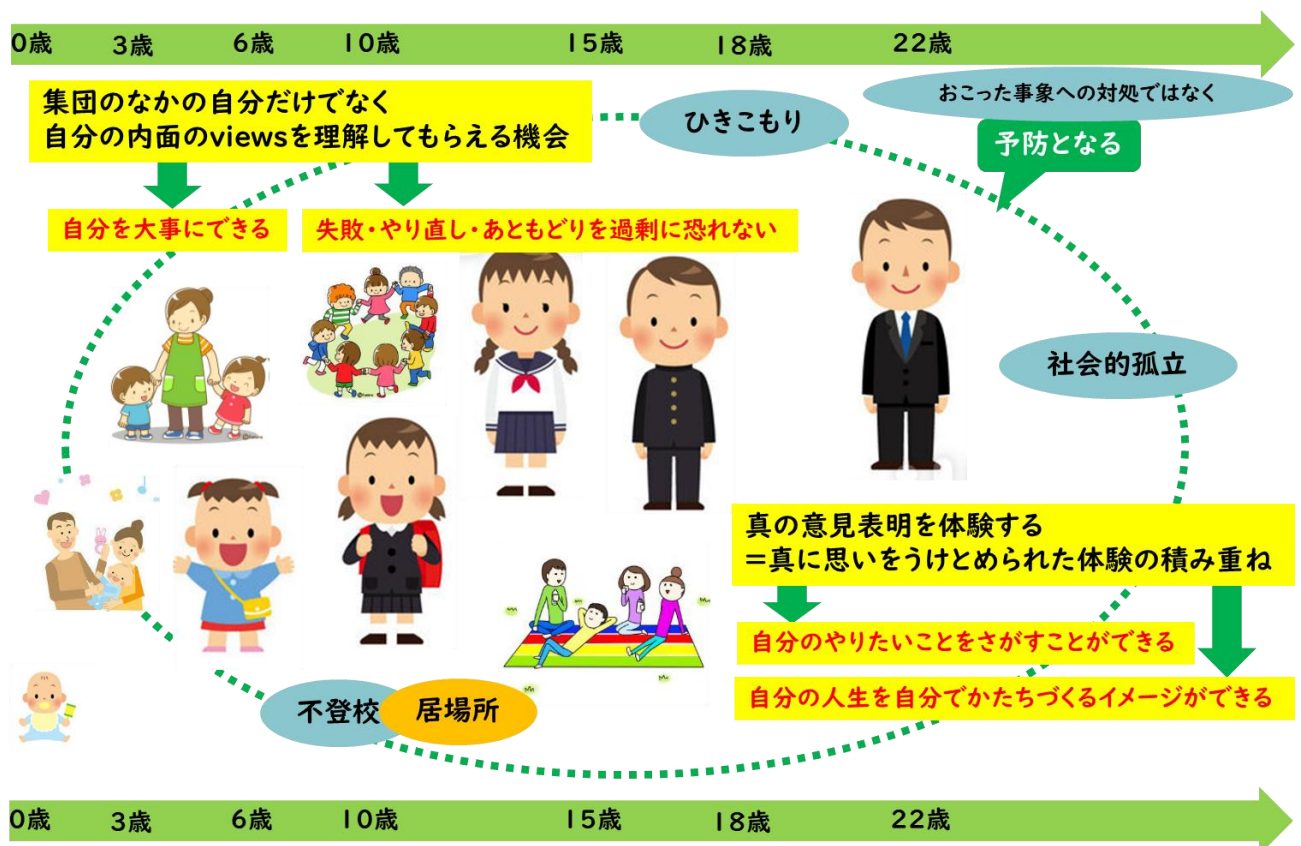
・地域活動から構築

緑・中川区内の自治的しくみづくり

・自治体事業への企画立案を通して構築

<子ども> 社会参画事業→子どもが自ら施策づくり

<ユース> ユースワーク普及事業等



(1) 子ども・若者の社会参画事業
海と環境と子どもたいけん隊
子どもの社会参画推進事業「なごっちサミット 2024」 みんなの意見がなごやの環境を守る！ワークショップ
校内居場所カフェ
学校連携事業
名古屋市緑児童館
名古屋市中川児童館
(2) 子育て・子育て支援事業
名古屋市緑区地域子育て応援拠点 森の実
子どもが育つ地域のつながりづくり事業
(3) 子どもの最善の利益を保障する事業
知立市生活困窮者子どもの学習・生活支援事業
名古屋市中学生の学習支援事業 A 型
名古屋市中学生の学習支援事業 B 型（大高南）
名古屋市中学生の学習支援事業 B 型（徳重）
名古屋市中学生の学習支援事業 B 型（旭出）
名古屋市高校生世代への学習・相談支援事業 A 型
名古屋市高校生世代への学習・相談支援事業 B 型
名古屋市ひとり親家庭の子どもの居場所づくり事業
子ども・若者の SOS が届くまちづくり事業
(4) 人材育成事業
ユースワーカー 育成推進事業
講師派遣
(5) 調査研究及び政策提言事業
地域開発・提言づくり
(6) 広報・啓発活動
広報・寄付活動

## ■海と環境と子どもたいけん隊

### <目的>

この事業は、ある子どもの「やってみたい」思いからはじまった。

コロナ禍による一斉自粛は、子ども達が生活の中で得ていく様々な体験の機会の喪失を引き起こし、複数年継続したことにより子ども達を内向的にしていき、周りへの興味関心や他者への関わりに対して消極的・不健全になっている問題が、様々な事業に関わる子ども達から見えてきた。そこで、本事業を行うことにより、興味関心の芽生え、他者との関わりや共有、環境や生態を知ること環境保全への始まりの一步を形成することを目的とし、海と環境と共有体験をテーマに事業を企画し実施した。単年度で終わらず事業を通して子ども達の反応やインタビューなどの調査も行い、その声から子ども達主体の体験活動を生み出していく。

### <取り組み内容>

#### 第1回 10/6 「海釣り～魚のことを知ろう！～」

内容：知多半島の海で釣り体験

場所：知多半島 小野浦海岸

#### 第2回 12/1 「外来種の生きものをしよう！たべてみよう」

内容：外来種の生き物たちを料理して食べる

場所：名東生涯学習センター

#### 第3回 12/26 「冬の里の生きものをしよう！」

内容：冬の生きものの過ごしている姿と公園で生きもの散策

場所：熱田生涯学習センター、熱田神宮公園

#### 第4回 1/12 「環境とアート～ビーチコーミングとアート作品づくり～」

内容：海岸に落ちている物を拾い、アート作品を作る

場所：山海公民館、山海海岸

#### 第5回 2/2 「水族館たんけん&こども企画かいぎ」

内容：水族館バックヤードツアー、こども企画づくり会議

場所：碧南水族館

### <成果・実績>

参加人数 のべ114名

幼児18名、小学生46名

中学生4名、大人46名



### <事業を終えて>

参加した子どもたちは素直に色んなことへチャレンジしていく姿が見られた。こうした体験の積み重ねが必要だと改めて感じた事業になった。体験事業へのニーズは、子どもよりも保護者層が高く、リピーターの方の参加も多くあった。最後のワークショップでは年齢層問わずやりたいことについての意見が多く出されたので、出た意見を参考に、体験事業を継続的に行っていきたい。

## ■ 子どもの社会参画推進事業「なごっちサミット 2024」

### みんなの意見がなごやの環境を守る！ワークショップ「まち☆しぜんエコカフェ」

#### <目的>

子どもの意見を基に名古屋市環境局の施策を作成していくプロジェクト。子ども青少年局の社会参画推進事業「なごっちサミット」の枠組みを活かし、セクター横断で、子ども青少年局・環境局・こども NPO とで協働して行う。「なごや環境学習プラン※」の改定にあたり、目指す「なごやの将来のすがた」について子ども自身が取り組んでみたいと思える市政への意見を聴取し、施策に反映させていく。

※なごや環境学習プラン⇒一人ひとりが今日の環境問題を自らの課題として捉え、分野・主体・世代を超えた協働により、持続可能な社会の実現をめざすための環境学習・教育を推進する名古屋市環境局が作成する計画

#### <取り組み内容>

- ・なごや子どもアンケート（WEB） 11/1～12/7

アンケート「みんなの意見がなごやの環境を守る！」調査を実施

- ・アウトリーチワークショップ 10/26～11/1

地域の居場所事業の現場、児童館等にてワークショップを実施。

イベントだけに拠らないあらゆる層の日常の声を拾う。

- ・なごっちサミットイベント当日 11/30

「みんなの意見がなごやの環境を守る！ まち☆しぜんエコカフェ」ワークショップを実施意見を切り取るのではなく、すべての要素を注入する手法で、心も体も生き様も一人ひとり違う子どもたちの思いを反映した。分析法は、質的研究 M-GTA(修正版グランデッドアプローチ)による。分析者(および分析焦点者)は、こども NPO のこども参画ファシリテーターおよび人間発達学研究者

#### <成果・実績>

参加人数 のべ 338 名

#### <事業を終えて>

分析結果から、社会や大人の無関心や子ども世代への先送り・押し付けを指摘するという子どもたちの課題意識の深さが浮き彫りになった。また、持続可能な社会をつくるために「なごやの将来のすがた」を描き、実現にむけてのアクションプランを子どもたちの声を基に図式化する段階まですすみ、これから環境企画課と施策に反映することになった。





## ■ 校内居場所カフェ

### <目的>

- ・学校との協働事業を持つことにより、社会で子どもの参加する権利の本質理解を目指す
- ・当団体が日ごろ会うことのできない広い範囲での子どもたちと出会うきっかけをつくる
- ・子どもたち自身が、多くの社会資源や幅広い大人像と触れる機会をつくる
- ・社会的に支援が少ない高校生世代への予防的な取り組みとして広く周知する

### <成果・実績>

参加人数 のべ 2,881 名  
若宮 18 回 1,080 名  
工業 17 回 891 名  
緑 10 回 581 名  
富田 7 回 329 名

### <取り組み内容>

- ・名古屋市立高校 4 校（若宮商業、市立工業、緑、富田）にて、子どもの参加する権利を土台とした学校内における居場所づくりを行う
- ・月 1～2 回程度、無料のカフェスペースを解放し、ゆっくりできる場と機会をつくる
- ・職員や大学生サポーターを基本として配置し、多様な関わりを展開する
- ・実施校と学期毎に協働会議を実施し、実践内容について高めていく
- ・必要に応じて教員、カウンセラー等と協議し、地域活動や連携機関につなげていく

### <事業を終えて>

- ・子どもにとって安全な学校という場で、評価や他者の目線を気にせず過ごす場ができた
- ・あえて市立高校を選定することにより、教員の転属などで理解者が増加している  
→一方で、転勤により関係性がゼロからになるため、定期的な協議の場が重要
- ・学校から、生徒にとって交流の場や機会であるため必要で重要な事業と言葉がある  
→どの実施校、どんな子どもであっても普遍的であることを周知していく必要がある
- ・他校や大学・大学生からの関心も多く、取材や講義、事業展開などが派生している  
→実施校や理解者の増加によって、名古屋から「子どもの参画を土台にした校内カフェの在り方」をアピールしていける可能性がある



## ■ 学校連携事業

### <目的>

- ・地域活動では会えない子どもたちと、教員等の立場ではなく社会の大人として関わることで、社会の多様性を見せるなどライフキャリアの一環として存在すること
- ・NPO 法人として、特に教育分野と協働することによって、実際の子ども権利の保障の在り方について考えるチャンスとしていく

### <取り組み内容>

- ・若宮商業高校 J R C 部  
年 10 回、外部顧問として、社会課題やライフキャリアについてワークショップ
- ・名東高校  
国際英語科における社会課題に向き合うプロジェクト型ゼミ「ワールドスタディズ」にて講義および年間ゼミ活動サポートを各グループに行う
- ・愛知県立大学  
地域活動への理解、見学・体験
- ・愛知淑徳大学 CCC  
社会課題に対する企画や活動の実施



### <成果・実績>

参加人数 のべ 453 名

若宮高校 87 名 名東高校 286 名

愛知県立大学 27 名 愛知淑徳大学 53 名

### <事業を終えて>

- ・子どもたちや学校組織に対して、多様な大人像や社会像を見せることができた。
  - ・協働先である学校の教職員に対して、協働の価値や意義を感じられる実例となっており、大人に対しても違和感なく実感として社会信頼を作り出すことができ、学校組織に対する NPO からのエンパワーを実現している。
  - ・関わる職員は日常業務と合わせて、時間や労力やこれまでのノウハウを惜しまず投入する状態になっていて、職員の育ちにもつながっている。
- 一方で、収入面には課題があるため一定の考察や検討が必要である。



## ■ 学校連携事業 オルタナティブ・スクールあいち惟の森

### <目的>

「教育」という場の中で子ども NPO の活動の中軸である「子どもの参画」の要素を取り入れた活動を行うことにより、主体性を持った人材の育成を「学校」の場で行う。学校という参加メンバーが固定された中での活動は、今までの自主参加の子どもたちとは違った組み立てが必要であるが、遊びで関わるプレイワークを中心に連携事業を通じて新たな子ども NPO の研修スキルを構築していく

### <取り組み内容>

「自由時間」のカリキュラムを担当。今年度は、午前中に個別にやりたいことをやる「マイプロ」の時間も設けた。

- ・「マイプロ」の時間では、子どもたちがそれぞれ活動したいことのフォローを行い、一緒に考えたスポーツの活動を共に行った。
- ・自由活動では、遊びを通じてスタッフや子どもたちとの関係性を作り、興味、関心、やってみたいことを体験の中から引き出していくことを心がけた。
- ・季節ごとに遊びの内容や外の活動を意識し、様々な遊びや企画が行われた。

外遊び：サッカー、ドッジボール、台車、プール、たき火、モルック、バドミントンなど

室内あそび：レゴ、パズル、イラスト、タブレット、ボードゲーム、紙粘土工作、アクセサリ作り、カプラ、読書、編み物、楽器、トランプ、卓球など

料理企画：チャーハン、パンケーキ、パスタ、パン作り、スイーツ作りなど

### <成果・実績>

参加人数 のべ 493 名

小学生 低学年 9 名、高学年 10 名

中学生 6 名



### <事業を終えて>

「マイプロ」の時間ができ、そこから続いた遊びが始まることが多かった。低学年の男子たちがするサッカーは外遊びの中心になり、その流れから他の子たちもモルックやバドミントンなど外で遊ぶ機会が増えていった。自由活動の時間にお出かけ企画などもあり、普段とは違った人数になると過ごし方も変わり、特に中学部の子どもたちとは進路についてなど、ゆっくりと話すような時間になった。スタッフと子どもたちとの関係性も長くなり、子どもたちから自主企画の相談や協力を求められる場面も多くあった。

## ■ 名古屋市緑児童館

### <目的>

- ・様々な環境下にあるすべての子どもたちが気軽に来館できるよう、特定の利用条件のない「ただの居場所」であることにこだわりつつ「子どもたちが遊びを通じて自ら育つ」ことのできる環境を整える。
- ・その上で「困りごとを抱えている子（保護者）」には個別で支援をしていく。
- ・事業を通じて子どもの社会参画のきっかけづくり、子どもの権利の周知を行う。
- ・緑区の子ども育成の中核となる。
- ・不登校の居場所づくり事業、プレーパーク事業、中高生居場所づくりモデル事業（名古屋市）などの先駆的な事業に取り組み、全市的な標準化を目指す。

### <取り組み内容>

#### 【子ども育成活動】

- ・子どもが自らの意思で遊び、過ごし育っていけるような環境づくり
- ・行事活動・クラブ活動・子どもが意見を述べる場の提供・子どもの自主活動・中学生の居場所づくりモデル事業・フリースペース事業（学校の代わりの日中の居場所の提供）

#### 【子育て支援活動】

- ・当事者たちによる循環型子育て支援（受け手から担い手へ）を目指す
- ・クラブ活動・子育てサークル支援事業・子育て支援ネットワークへの参画

#### 【地域子育て支援拠点事業】

- ・親子の交流、相談、情報提供、講習など・あかちゃんひろば・じゅうひろば・わらべうたひろば・おはなしバスケット・カラクマひろば（障害を持つ子どもと親の交流の場）

#### 【地域福祉推進活動】

- ・プレーパーク事業を通じた遊びの場の提供、外遊びの重要性の啓発、世代間交流事業
- 学習支援事業：学習面のみならず、居場所の要素も重点に置いた学習支援

### <成果・実績>

利用者数 のべ 34,188 名  
館内利用 28,416 名  
移動児童館事業 5,772 名



### <事業を終えて>

- ・不登校の居場所づくり事業（フリースペース）はプログラムへの参加を困難に感じる子どもがいた。それを踏まえ、次年度は小中学生専用の部屋開放として事業を試行する。
- ・中高生の居場所づくりモデル事業では、経年実施やスタッフとの関係性が深化したことにより、個別案件への対応や介入が顕著であった。引き続き関係機関や所管課と連携しながら事業化へ寄与していく。
- ・コロナ禍で疎遠になっていた乳幼児サークルへの活動支援、協働企画に注力した。
- ・屋外事業では、夏季の酷暑が課題であった。今後も対策を検討していく。

## ■名古屋市中川児童館

### <目的>

子どもと大人のパートナーシップによって、持続可能な社会を目指し、幼児期から青年期までの子どもたちが「自ら育つ」環境づくりに取り組む。子どもの権利条約を基盤とした児童館運営を行う、さまざまな機会を通じてその理念を普及する。

安全で安心できる場づくり、生きる力を育てる場、子どもの育ちを保障する場づくり、子どもの社会参画の推進、子どもの第三の場所としての居場所づくり、移動児童館や出張事業などのサテライト事業で区民全体が利用しやすい児童館、地域の子育て・子育て力を高める

### <取り組み内容>

#### 【福祉会館との交流事業】

・交流ひろば、ほっこりひろば、合同シアター、カラオケ大会 など

#### 【「子どもの権利」の理解促進】

・子どもの権利トーク

#### 【他機関との連携・情報共有】

・エリア支援保育所、保健センター、地域子育て応援拠点、子ども応援委員会、学校との連携

#### 【定例事業】

・子ども育成活動 ・子育て・子育て支援活動 ・地域福祉促進活動 ・地域との協働事業 ・移動児童館事業 ・中学生、高校生の学習支援事業・その他事業 等

### <成果・実績>

利用者数 のべ 24,701 名

館内利用 18,172 名

館外・その他事業等 6,529 名



### <事業を終えて>

乳幼児親子への支援体制は整いつつあるが、小中高生の他機関連携が不十分であると感じる。2025 年は児童館の日常から拾える児童の現状と課題について、地域の他機関との共有を意識し、学校・子ども応援委員会に加え、新たに児童に関わる相談機関等とのつながりづくりを意識していく。





## ■名古屋市緑区子育て応援拠点森の実

### <目的>

子育ての交流の場のほか、一時預かりや相談支援などにより充実した支援を提供することにより、支援を必要とする子育て親子を支え、子育ての負担感や不安感を軽減するとともに、児童虐待の未然防止につなげることを目的とする。

### <取り組み内容>

#### 【子育て支援事業】

- ・パパ向け連続講座…「そとあそび体験型」「おしゃべり座談会」とニーズに応える形で開催
- ・利用者向上委員会…常連利用者を招待した緩やかなヒアリングの会
- ・様々なツールによる相談業務…特に公式 LINE が気軽な相談ツールとなっている
- ・知恵袋や関係機関同行のアウトリーチ

#### 【一時預かり事業】

ニーズが高く、圧倒的に数が足りていないという課題を抱えている。

### <成果・実績>

利用者数 のべ 11,206 名  
親子組数 5,115 組  
新規登録者数 454 組  
一時預かり総数 700 名  
屋外型居場所総数 363 組  
アウトリーチ のべ 26 件  
関係機関と同行訪問 のべ 2 件



### <事業を終えて>

開所して3年目となり、常連利用者が増えてきた。初めて来所した親子への声かけや子どもの遊びの見守り等において常連利用者が主体的に関わるなど、利用者同士支え合う姿が多くみられるようになってきた。当事者が参画し、当事者と共に森の実運営を行うことを目標とし、その仕組みの一步として「利用者向上委員会」を発足、開催することができた。当事者が今感じている応援拠点に対する所感や要望を聞く機会となり次年度の運営に反映させていく。

また子どもの権利を基盤とした子どもへの関りをスタッフが日常的に見える化していることが根付いてきているようで、子どもがやりたい遊びを主体的に見つけ遊ぼうとする姿も増えてきている。ただ遊び込める環境づくりには課題が残る。来年度は子どもの育ちと遊びについて深める1年とした

## ■ 子どもが育つ地域のつながりづくり事業

### <目的>

多様な主体（地域住民、ボランティア、学区、関係機関等）と協働し、「地域における子どもの遊び場」「子育て家庭や住民の交流の場」「悩みや困難を抱えた子どもの居場所」づくりを目指す。プレーパークの準備、開催を通じて子育てのしやすい地域づくり、子どもたちが豊かに育つ地域づくりを目指す。

### <取り組み内容>

子どもたちの「好奇心」や「やってみたい」という気持ちが発揮されるように遊びの環境を整え、子どもの遊びをサポートする。

#### 【サバナプレーパーク】大高南地区 全 12 回

同時開催の子ども食堂をはじめ地域の複数の団体との連携により多面的に参加者を見守り、関わることでできている。事案により関係機関との連携などしながら対応している。

#### 【なるこプレーパーク】鳴子地区 全 12 回

公園愛護会として毎回公園のゴミを拾うことが定着した。遊びと地続きで清掃活動している。中学生の参加も定着し火起こし、調理まで自分たちで工夫しながら楽しんでいる。

#### 【みずひろプレーパーク】鳴海東部地区 全 12 回

常連参加の小学生や親子が定着しており、設営や片付けなど自立的な活動になっている。新規参加者に対しても過ごし方を提示するなど参加者主体の遊び場となっている。

#### 【せんくづかプレーパーク】片平地区 全 12 回

地域の大人のサポートが手厚い。が子どもの遊びに口出しすることは少なく、程よい距離感で子どもたちの遊び、過ごし方をサポートしている姿が見受けられる。

### <事業を終えて>

- ・4 か所とも特色は異なるが、経年実施により、各拠点ともに子どもたちが中心の遊び場が展開されている。活動に関わる地域住民も増加している。
- ・「担い手」の性格を帯びた参加者の世代交代が課題ではあるが、常連やリピーターの過ごし方が新規参加者にゆるやかに浸透しており、循環している様子が見て取れた。
- ・アウトリーチの側面として、相談対応や福祉的な介入につながった事例も散見された。

### <成果・実績>

参加人数 のべ 2,193 名

子ども 1,555 名

おとな 638 名





## ■ 知立市生活困窮者子どもの学習・生活支援事業

### <目的>

生活保護やひとり親家庭など家庭の貧困や虐待など、特有の課題を持たざるを得ない子どもたちが、地域には多く存在している。子どもの貧困率も低下したとはいっても、まだまだ現状把握さえまなっていない。生活の基盤がなく、子ども自身の権利が保障されていない環境の中で、学習や進学をすること、自立することを迫られた状況にある。

そうした子どもたちと学習支援の場を共につくることにより、貧困の連鎖を断ち切ったり、貧困に陥らないような社会資源（人的、文化的）と繋がったりすることができる場をつくる。対処療法的な支援も行いながら、予防的な支援としての学習支援を目指し、東海圏での学習支援のフラグシップモデルになることを目指す。加えて、当団体の中で唯一名古屋市以外の自治体での活動であり、事業の展開や自治体内でのあり方含めて、子どもの権利や活動の普及に関して重要な事業と捉えている。

### <取り組み内容>

学習支援 48回（週1回程度）、居場所22回（月2回程度）

- ・学習会の実施（5教科等の基礎学習、学校課題や復習に取り組む）
- ・交流会の実施（居場所となる関わり、傾聴等での相談支援）
- ・学習サポーターの育成（研修等での支援者・理解者の拡充・養成）
- ・関係機関と連携や報告（行政関連部署や関連団体とのネットワーク）
- ・家庭からの相談対応（養育相談、必要な支援へのつなぎ）
- ・学校との連絡会実施（年2回程度実施。担任教員と知立市福祉課と共に実施）



### <成果・実績>

参加者数 のべ 247 名



### <事業を終えて>

本事業では、中学生への学習支援を通じて、生活や学習に課題を抱える子どもたちに安心して通える居場所を提供し、基礎学力や学習習慣の定着、自己肯定感の向上に寄与した。市役所や学校と良好な連携を築き、情報共有を通じたきめ細やかな支援も実現できた。

また、支援を継続的に受けた子どもが高校に進学後もつながりを保ち、進路や人間関係、金銭的な悩みなど、思春期特有の課題に地域の大人が寄り添う形で支えることができたのも成果である。一方で、家庭や学校以外に安心して過ごせる場が限られている子も多く、社会的な孤立を防ぐための多機関連携や、より長期的な視点での支援体制の構築が今後の課題である。



## ■ 名古屋市中学生の学習支援事業 A 型、B 型（大高南、徳重、旭出）

### <目的>

個々の能力に応じて学習習慣をつけることや高校進学に向けた支援を行う。併せて、児童の居場所づくりとなるような取り組み及び保護者への養育支援を行う。また、支援対象者に対して高校進学や高校生活に有益な情報を学習会や文書等で適宜提供する。

そうした子どもたちと学習支援の場を共につくることにより、貧困の連鎖を断ち切ったり、貧困に陥らないような社会資源（人的、文化的）と繋がったりすることができる場をつくる。対処療法的な支援も行いながら、予防的な支援としての学習支援を目指し、東海圏での学習支援のフラグシップモデルになることを目指す。

### <取り組み内容>

- A 型（週2回程度） 会場① 92回、会場② 92回  
B 型（週1回程度） 会場① 50回、会場② 50回、会場③ 50回
- ・学習会の実施（5教科等の基礎学習、学校課題や復習に取り組む）
  - ・交流会の実施（居場所となる関わり、傾聴等での相談支援）
  - ・学習サポーターの育成（研修等での支援者・理解者の拡充・養成）
  - ・関係機関と連携や報告（行政関連部署や関連団体とのネットワーク）
  - ・家庭からの相談対応（養育相談、必要な支援へのつなぎ）

### <成果・実績>

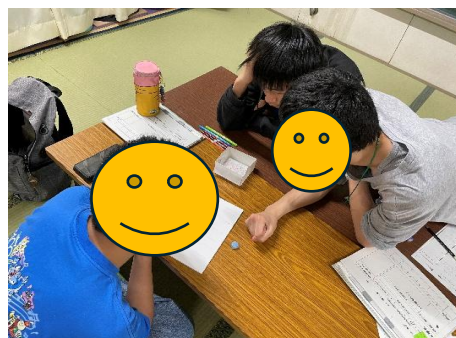
#### 参加者数

- A 型 会場① のべ 466 名  
会場② のべ 330 名  
B 型 会場① のべ 247 名  
会場② のべ 293 名  
会場③ のべ 192 名

### <事業を終えて>

家庭環境や生活に課題を抱える中学生に対し、安心して学べる場を提供できたことは大きな成果である。学力の向上だけでなく、「話を聞いてもらえる場所」としての役割を遂行するため子どもと支援員との間に小さな信頼を積み重ね、自己肯定感の回復や学校生活への前向きな姿勢につながった。

反面、学習以外の悩みに学習支援事業単体では十分応じきれない場面もあり、福祉的な視点を持つ地域や関係機関で作られた支援体制の必要性を感じた。今後は、学校・家庭・地域と連携しながら、中学生一人ひとりの背景に寄り添う継続的な支援が求められる。



## ■ 名古屋市高校生世代への学習・相談支援事業 A 型、B 型

### <目的>

名古屋市中学生の学習支援事業に参加していた子どもたちを中心として、継続した支援が必要な高校生世代の子どもたちがいる。

高校に進学したからといって、生活が極端に良くなるわけではなく、より困難さを抱えることもある。高校中退を防止することと同時に、学び直しや大学進学相談、就労・家族・友人関係での悩み事相談、アルバイトや就労先での仕事や金銭面での相談等、様々な面から通っていた学習支援の場があることは望ましいこともある。高校を辞めた子ども、入り直したい子ども等、ハイティーンと呼ばれる 18 歳までの子どもたちを受け入れる場は社会的にそれほど存在していない。そうした狭間の支援を行う事業とする。

### <取り組み内容>

- A 型（週2回程度） 会場① 92回、会場② 92回  
B 型（週1回程度） 会場① 50回、会場② 50回、会場③ 50回
- ・学習会の実施（基礎学習、学校課題や復習に取り組む）
  - ・交流会の実施（居場所となる関わり、傾聴等での相談支援）
  - ・学習サポーターの育成（研修等での支援者・理解者の拡充・養成）
  - ・関係機関と連携や報告（行政関連部署や関連団体とのネットワーク）
  - ・家庭からの相談対応（養育相談、必要な支援へのつなぎ）

### <成果・実績>

#### 参加者数

- A 型：会場① のべ 92 名  
          会場② のべ 307 名  
B 型：会場① のべ 35 名  
          会場② のべ 46 名  
          会場③ のべ 88 名

### <事業を終えて>

中学生の学習支援を経て高校に進学した子どもたちの中には、なお困難な状況に置かれる者も少なくない。高校進学はゴールではなく、生活や人間関係、進路、金銭面などより深い悩みに直面する時期でもある。特に、高校を中退した、あるいは再入学を望む子どもたちが安心して通える場は社会的に限られている。こうした“狭間”にある高校生世代への継続的支援は、学び直しや自立に向けた土台を築く上で不可欠であり、福祉的なまなざしのもとで支える事業の重要性が高まっている。

継続的に学習支援に参加してくれることは、信頼関係や安心感の表れであり意義深い。一方で、それは裏を返せば、家庭や学校、地域などに安心して過ごせる他の居場所が少ないことを意味している場合もある。支援の場が唯一の居場所になっている現状は、社会的な孤立のリスクをはらんでおり、包括的な支援の必要性を示している。





## ■ 名古屋市ひとり親家庭の子どもの居場所づくり事業

### <目的>

学校等の子どもの集団の中で一般家庭との違いを敏感に感じ取り孤立を深める一方、思春期における家族観の変化から家庭以外の居場所を求める思春期にあるひとり親家庭の子どもに対して、家庭や学校以外の場所で地域の大人が見守る中で発達し、ひとり親家庭の子ども同士が絆を深めることができる第3の居場所（サードプレイス）を提供し、参加した子どもが生活習慣や学習習慣を身につけるとともに、自己肯定感の獲得や将来への自立意欲を高め、貧困の連鎖を断ち切る力を身につけることを目的とする。

### <取り組み内容>

開催回数 50回

- ・過ごしやすい場所の提供（居場所づくり権利が保障される場づくり）
- ・日課の実施による生活習慣の指導（自立に向けた体験、日常づくり）
- ・学習の補完やスポーツ等の活動（プレーパーク、学習支援）
- ・集団形成に資するイベント実施（外遊びやボードゲーム等）
- ・軽食の提供

### <成果・実績>

参加者数 のべ 505 名

### <事業を終えて>

学校や家庭以外で安心して過ごせる“第3の居場所（サードプレイス）”を提供するとともに、学習支援や子ども食堂など生活・教育・食といった多方面からのアプローチを実現した。

家庭環境や経済的な背景の違いを学校などの集団の中で敏感に感じ取り、孤立しがちな子どもたちにとって、地域の大人が見守る中で過ごす時間は、安心感を得る重要な機会となった。特に、同じような境遇の仲間と出会い、自己理解を深められることは、自己肯定感の回復と将来への希望を育むきっかけとなっている。

また、児童相談所で一時保護された子どもが地域に戻った際にも、支援の場が継続的な見守りの役割を果たし、子どもが再び孤立しないための「つなぎ目」として機能している点も重要な成果である。一方で、支援の場が子どもにとって唯一の居場所となっているケースもあり、社会的孤立のリスクをはらむ側面も浮き彫りとなった。今後は、家庭・学校・地域が連携し、子どもたちが複数の居場所や頼れる大人とつながれる環境づくりを進めるとともに、子ども一人ひとりの背景に寄り添った柔軟かつ継続的な支援体制の充実が求められる。



## ■ 子ども・若者の SOS が届くまちづくり事業

### <目的>

- ・子ども・若者の最善の利益を保障するという土台を持ち、实际的に子ども・家庭・若者に関わる事業とする。  
NPO 法人として柔軟な対応を取りながらも、個別への支援に閉じることなく、公的支援体制へもつながら予防的支援や長期での伴走を行う。
- ・まちづくりの視点を持ちながら社会へ問いかけ、实际的な連携やそのネットワークを形成する。

### <取り組み内容>

- ①子どもとつくる子ども食堂さばんなかふえ（月 1 回）  
大高南学区特に市営森の里荘や周辺関係者と協働した子ども食堂
- ②ユースひろば（月 1 回）  
子ども期から継続して関わる若者への場と機会の継続
- ③社会体験・自立支援事業  
継続的に関わってきた困難状態にある若者へのライフキャリア形成
- ④個別支援事業  
どの社会的制度・支援にもあてはまらない子ども・家庭・若者への対応
- ⑤緊急期・被災地支援
- ⑥地域連携・まちづくり  
子ども参加を促す連携開発や会合参加やネットワークづくり

### <成果・実績>

#### 参加者数

- ①のべ 1,174 名
- ②のべ 87 名
- ③のべ 107 名
- ④のべ 288 名
- ⑤のべ 100 名
- ⑥のべ 68 名

### <事業を終えて>

- ・地域での長年のアプローチから、他主体 2 つが子ども食堂を同場所にて開催となった
- ・小学生向け学習支援や朝ごはん支援など、新たな方向性模索も始まっている
- ・信頼関係の継続から支援機関にゆるやかにつながっていくスタイルが確立されつつある
- ・社会制度から見放されている子ども・家庭・若者から、その実態が浮き彫りになっている  
→多様な対応が求められ、資金面や理解周知の不足が喫緊の課題になっている
- ・寄付金や助成金獲得ができたため、事業実施が叶った  
→それを上回る依頼や表からや数字では見えない対応が求められる状態にあった





## ■ ユースワーカー育成推進事業

### <目的>

あらゆるユースの生活空間にユースワーカーがいる文化の醸成を目指す子ども青少年局事業における企画・運営を当団体が担う。目的達成に向かうロードマップは以下の通り。

- |       |                                       |
|-------|---------------------------------------|
| STEP1 | ユースの実情を知る                             |
| STEP2 | あらゆる若者へのアプローチ/各セクターの掘り起こし/無関心層へのアプローチ |
| STEP3 | 市民型フォーラム形成、共催の拡充                      |

### <取り組み内容>

#### ① 子ども若者にかかわる市民フォーラムの実施 3/8

「若者の実情を知る～地域実践者たちが見たあらゆる環境にある若者たちの姿～」

ユース世代の実情を知り理解を深め、身近なあらゆる子ども・若者へどのようなエンパワメントができるかを考えた。参加者の活動や日常のなかで、「何ができるのか」「向き合う際の態度」などをテーマにした講話やトークセッションを通して互いの思いやアイデア、見地を共有し、ユースワークの本質を学びあった。

#### ② 登壇者企画交流会

今後のネットワーク形成に向けて、コアメンバーによる交流会。フォーラム同日に実施した

### <成果・実績>

参加者数

① 32 名 ② 14 名

### <事業を終えて>

多分野からの登壇者により、子ども・若者の日常や応急時にどのように向き合っているかが語られることで、真摯にかかわる大人の姿にはどのようなセクターに身を置いて、大切にしていることが共通していることが浮き彫りになった。その共通項には「子どもの権利」の本質が貫かれており、当団体がビジョンを示して取り組む意義が深いことを再認識した。



## ■ 講師派遣

### <目的>

行政、教育機関、各種団体からの要望に応じ、講座・研修の講師や事例報告を行うことで団体の活動を広く周知し、団体の理解者を増やす。社会的に弱い立場に置かれている子どもたちの現状を伝え、子どもを取り巻く環境を改善するための一助とする。

### <成果・実績>

依頼件数  
講師派遣 22 件  
委員・実行委員 7 件

### <取り組み内容>

#### ■ 講師、登壇、ファシリテーター（一部抜粋）

- 6/2 こども環境学会 20 周年記念全国大会（こども環境学会）
- 6/5 託児ボランティア養成講座（名古屋市北生涯学習センター）
- 8/8 自分の本音と向き合って（名古屋市教育委員会）
- 8/25 学校内居場所カフェの実践について（太陽の家）
- 9/7 なごや環境学習プランをテーマとした実践者向けワークショップ（なごや環境大学）
- 9/11 心の根っこは遊びで育つ（一宮市子育て支援課）
- 9/24 中勢地区高等学校・県立学校人権教育推進委員会研修
- 10/9 ワークショップ ユースワーカーに求められるスキル（太陽の家）
- 10/13 「若者」×「居場所」WORKSHOP（椙山女学園大学）
- 11/8 子どもの想いを知る～子どもは大人に従うべきでしょうか？（名古屋市教育委員会）
- 1/10 子どもの居場所づくりの実践と課題～地域との連携を目指して（名古屋大学）
- 1/14 子どもの権利を基盤とした子どもとの関わり方（三重県教育委員会）
- 3/15 こどものけんりをたのしく学ぼうワークショップ（名古屋市里親会こどもピース）

#### ■ 各種委員、実行委員会

なごや子ども・子育て支援協議会、名古屋市子ども・若者支援団体意見交換会  
なごや環境学習プラン策定懇話会、地方自治と子ども政策全国自治体シンポジウム  
大府市有識者懇話会、知立市子ども・若者支援地域協議会、  
とよた子どもの権利条約フォーラム実行委員会

### <事業を終えて>

- ・昨年に引き続き多くの団体から依頼を受け、さまざまな切り口で子どもの権利や社会参画についての講座を行った。市外、県外からの依頼も増加傾向にあるので、広報・営業活動にも力を入れていきたい。
- ・これまで関わっている名古屋市の協議会の他、大府市や知立市からも懇話会への参加や委員として協議会への参加を求められるようになった。行政に向けて直接意見を言える場があり、子どもを取り巻く環境の改善につながる政策提言を行っている。

## 2024年度 決算報告

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

活動計算書 金額 単位：円（税込）

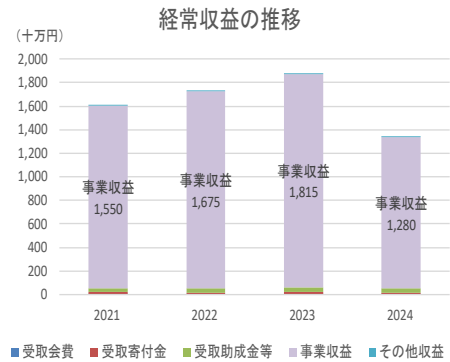
経常収益	受取会費	252,000
	受取寄付金	1,107,268
	受取助成金等	3,937,136
	事業収益	127,994,507
	その他収益	125,355
	経常収益 計	133,416,266
経常費用	事業費 人件費	83,567,332
	事業費 その他経費	38,112,110
	事業費計	121,679,442
	管理費 人件費	6,451,614
	管理費 その他経費	3,185,081
	管理費計	9,636,695
	経常費用計	131,316,137
	当期経常増減額	2,100,129
経常外収益	過年度損益修正益	10,000
経常外費用	過年度損益修正損	96,782
	税引前当期正味財産増減額	2,033,556
	法人税、住民税及び事業税	78,402
	当期正味財産増減額	1,955,154
	前期繰越正味財産額	65,077,297
	次期繰越正味財産額	67,032,451

### 貸借対照表

科目	金額	単位：円（税込）			
流動資産	(現金・預金)		流動負債	未払金	9,875,129
	現金	455,707		前受金	10,000
	預金	71,945,804		預り金	853,840
	(売上債権)	1,698,360		未払消費税等	717,300
	(棚卸資産)	54,010			
	(その他流動資産)	1,703,257		負債の部 合計	11,456,269
固定資産			正味財産		
	(有形固定資産)	1,754,292		前期繰越正味財産額	65,077,297
	(無形固定資産)	105,270		当期繰越正味財産額	1,955,154
	(投資その他の資産)	772,020		正味財産の部 合計	67,032,451
	資産の部 合計	78,488,720		負債・正味財産 合計	78,488,720

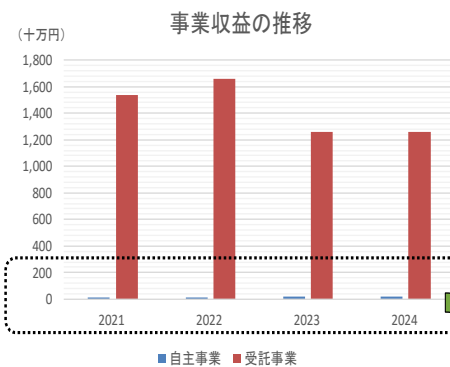
## 経常収益の推移

	第21期 2021	第22期 2022	第23期 2023	第24期 2024
受取会費	324,000	313,000	284,000	252,000
受取寄付金	2,007,163	835,114	1,615,190	1,107,268
受取助成金等	2,785,069	3,823,878	3,916,037	3,937,136
事業収益	154,962,981	167,512,559	181,493,628	127,994,507
その他収益	5,836	52,861	62,823	125,355
合計	160,085,049	172,537,412	187,371,678	133,416,266



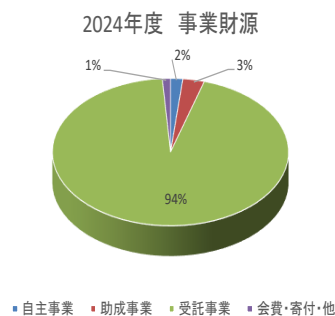
## 事業収益の推移

	第21期 2021	第22期 2022	第23期 2023	第24期 2024
自主事業	926,354	1,307,510	1,886,230	2,232,813
受託事業	154,036,627	166,205,049	126,108,277	125,761,694
合計	154,962,981	167,512,559	127,994,507	127,994,507

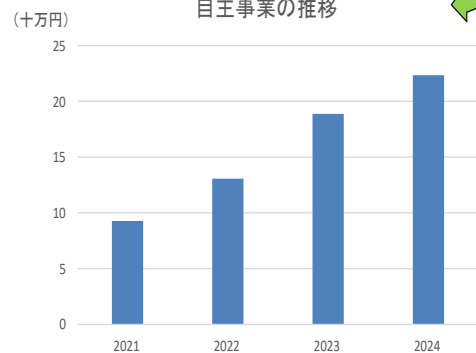


## 2024年度 事業財源

自主事業	2,232,813
助成事業	3,937,136
受託事業	125,761,694
会費・寄付・他	1,484,623
合計	133,416,266



## 自主事業の推移



# 私たちの活動を応援してください

## ★会員になって応援★

会員のみなさまには【**こどもNPOだより**】をお届けします（年４回）。

また、こどもNPOの会員メーリングリストにご登録いただきますと、こどもNPOや関連団体の情報、イベント情報をお届けします。（不定期）

**正会員 会費 5,000 円／年**

総会での議決権を持ち、団体運営に直接かかわることができます

**賛助会員 会費 3,000 円／年 団体賛助会員 会費 5,000 円／年**

活動理念に賛同し、団体の活動を応援・ご支援いただく会員です。

## ★寄付で応援★

いただいたご寄付は、事業運営、団体運営のために活用させていただきます。

【オンラインクレジット寄付】 団体 HP トップページよりお手軽に寄付ができます。

【振込先】 ゆうちょ銀行 00860-2-188302 特定非営利活動法人こどもNPO

ゆうちょ銀行 〇八九支店 当座 0188302 特定非営利活動法人こどもNPO

【東海ろうきん寄付システム】 100 円でできる社会貢献

任意の寄付額を設定し団体を指定して寄付ができる東海ろうきんの NPO 寄付システムです。

口座から自動引落しで、継続的に団体を応援することができます。

## ★お買い物で応援★

**幸せの黄色いレシートキャンペーン**

イオンモール大高（名古屋市緑区）に団体登録しています。

毎月 11 日に発行される黄色いレシートを、こどもNPOに投函してください。

レシート合計金額の 1%にあたる品物がイオンより寄贈されます。



## ★情報シェアで応援★

- ・ SNS でいいね！やシェアをする
- ・ SNS でこどもNPOの活動を紹介する
- ・ お友達にこどもNPOの企画を話してみる ぜひ情報発信をお願いします。

**みなさまからの寄付はこのような活動に充てられています！**

○イエローレシートキャンペーン

- ・ 子ども食堂や SOS 事業など、事業運営に必要な物品の購入

○寄付金でささえられている活動

- ・ 事業で使用する物品の購入、会場費
- ・ 子ども会議を行うための貸会場の会場費
- ・ 子どもたちが他の地域のイベントに参加するための交通費、参加費
- ・ 団体自主事業の活動資金として活用させていただいています





〒458-0004 名古屋市緑区乗鞍二丁目1717

TEL 052-848-7390 (電話受付時間 火~金9:00~17:30)

Email [office@kodomo-npo.or.jp](mailto:office@kodomo-npo.or.jp)

HP <https://www.kodomo-npo.or.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/kodomonpo.nagoya>

Instagram <https://www.instagram.com/kodomo.npo/>

